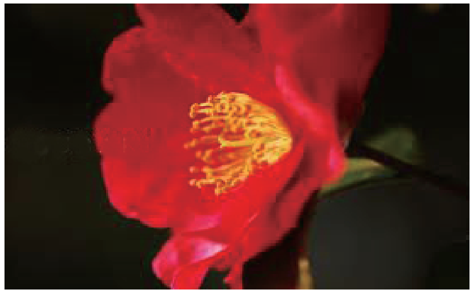


天の喜び

初めて西坂の丘に来て祈った時、
私は驚きました。
なぜなら、
坂を上って西坂の丘にたどり着くと、
そこには「喜び」があったからです。
天から注がれてくるような
さわやかな明るい喜びが、
確かにそこにあったのです。
それは、私の中にそれまであった、
暗い悲惨な殉教というイメージとは、
あまりにもかけ離れていました。
そこには、
とても深い主の臨在があったのです。
その日は小雨がふっていましたが、
私が西坂の丘に立ち、
心を主に向けて祈ると、
喜びが内側からあふれてくるのです。
主は私にその時語られたのです。
「彼らは喜んでいた」と。

長崎殉教記念聖会

～日本 26 聖人の足跡にならって～

人若し我に従わんと欲せば、
己を捨て
十字架をとりて、
我に従うべし。
マルコ伝 8 章 34 節

私たちはプロテスタントの教会ですが、
日本 26 聖人の歩みに深く感銘を受け、
これからの時代に備えて、
その足跡にならうようにと、
この日を記念する集会を行ってまいりました。
ぜひ、ともに神さまをほめたたえ、
神さまのことばに耳を傾ける
ひとときを持って頂ければ幸いです。

連絡先：長崎市平和町 5−6−2F（095)843-3178
E-mail:n.shimobe@gmail.com

長崎殉教記念聖会実行委員会

あなたは、
喜んで、ゆるして、
死んでゆくことができますか？

1597 年 2 月 5 日、
日本で初めての殉教がありました。
今から 400 年以上も前のことです。
時の権力者、太閤秀吉によって
24 人のキリシタンたちが、大阪・京都で
捕らえられ、ひと月以上かけて長崎まで
連れてこられ、西坂という丘の上で、
十字架につけられて殺されたのです。
一緒に付き人としてついてきていた 2 人も
加わり、西坂では 26 人になっていました。
彼らは「日本 26 聖人」と呼ばれています。

彼らは、喜んでいました。
なぜ、喜んでいることができたのでしょうか？

彼らは知っていたからです。
死は終わりではないことを…

死のかなたに、
死も涙も悲しみもない永遠の世界、
天国があることを。
そして、すでにその天の喜びの中に
生きていたからです。

ペテロ・バプチスタが涙を流した彼杵の海

彼らは、ゆるしていました。
なぜ、ゆるすことができたのでしょうか？
自分に痛みを与える人を、殺そうとする人を、
どうしてゆるすことができるのでしょうか？

それは、彼らの中に、
キリストが
生きていたからです。

イエス・キリスト
この方は、何一つ罪を犯されませんでした。
しかし、私たちが自分で
どうすることもできない罪と、弱さと、
その結果もたらされるすべての呪いと病を、
イエス・キリストは、ご自分の身に負って、
私たちの身代わりになって、
十字架で死んで下さったのです。

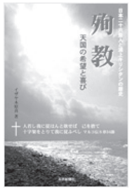
その十字架の壮絶な苦しみの中から、
叫ばれました。
「父よ、彼らをゆるして下さい。
彼らは自分で何をしているのか、
わからないのです」と…

罪の代価は、すべて支払われました。
私たちは、ただ自分の罪を悔い改めて、
イエス・キリストを信じるだけで、
その時、全く新しく
生まれ変わることができるのです。
そして、そのゆるしの愛の中に
生きることができるのです。

殉教者たちからのバトン

殉教者たちの物語は、
まだ終わってはいません。
殉教者たちの血の報いである魂の大収穫、
リバイバルがこの国を訪れるその時、
彼らの物語は完結します。
私たちが今、26 聖人をはじめとする
殉教者たちの足跡をたどり、
彼らから神様の語りかけを受けようと
していることの目的は、ここにあります。
命をかけてまで
主に従い通した殉教者たち。
彼らから、そのバトンをしっかり受け継いで、
この終わりの時代を
私たちは走り抜くのです。
彼らの殉教の血の報いである魂の大収穫、
リバイバルを神さまから担わせていただいて、
私たちは最終ランナーとして走るのです。

イザヤ木原真著
「殉教～天国の希望と喜び」より抜粋



殉教　天国の希望と喜び
日本二十六聖人と浦上キリシタンの歴史
イザヤ木原真 著

出版社：み声新聞社
定価 1.234 円（本体 1.143 円 + 税）

まんが　日本キリスト教史
まどかまこ 著

上巻　国籍は天にあり
下巻　浦上キリシタン物語

出版社：雲の間にある虹出版
定価 : 上巻 1.028 円 下巻 1.234 円